

ドキュメンタリー映画とトーク

# 『絞首台からの生還』



1975年11月22日

韓国政府は留学中の在日韓国人を「スパイ容疑」で逮捕した

160人が拘束され、9人「死刑」の宣告を受ける

あれから半世紀が経った



この映画は死刑判決が確定した  
康宗憲、李哲、孫裕炯への聞き取りを中心に構成した  
家族と友人たちの愛の物語です

「死刑を宣告する！」  
突然、裁判所でそう宣告されたら  
あなたはどうする？

## 絞首台からの生還

取材・撮影・監督/小山帥人、西村秀樹  
ナレーション/水野晶子 編集/黒瀬政男  
ナレーション録音/湯原大地 音響効果/吉田一郎  
製作/「絞首台からの生還」製作委員会  
製作協力/若宮まさこ、在日韓国良心囚同友会  
宣伝美術/高元秀 題字/李哲  
ドキュメンタリー/2025年 1時間22分

※上映後に小山帥人監督のトークと若者からのメッセージ

日時：2026年9月12日（土）14:00-16:30（受付13:30～）

★日本語文字通訳あり

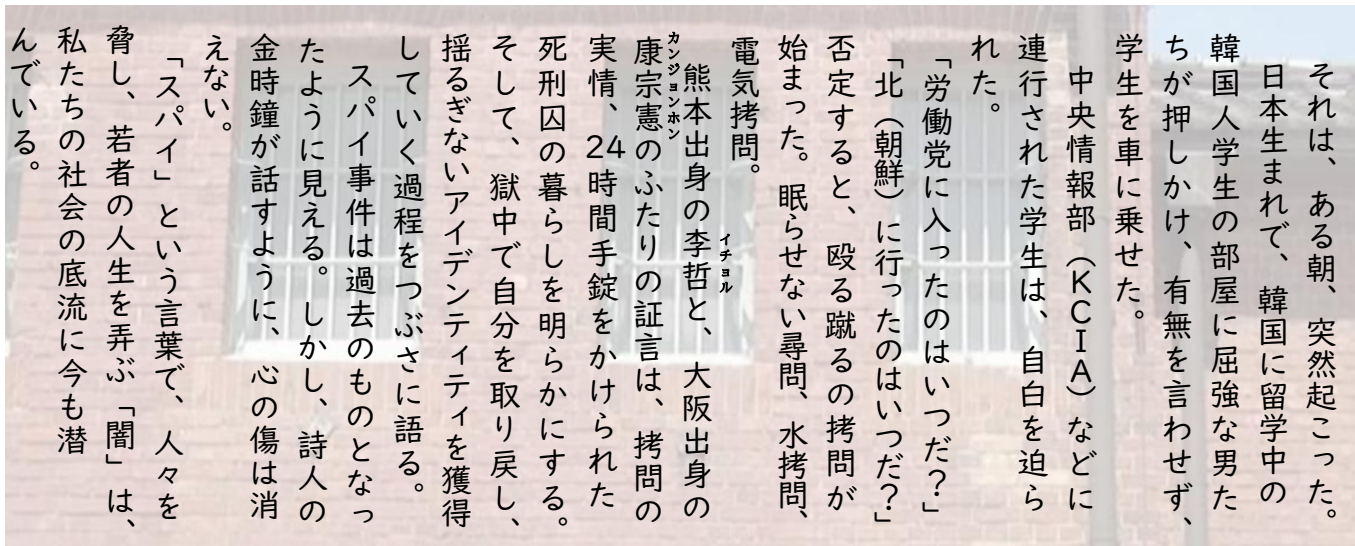
会場：エル・おおさか 5階視聴覚室（最寄り駅「天満橋」または「北浜」  
大阪府中央区北浜東3-14）

参加費：500円 定員：先着70名（当日受付）

共催：（一財）アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）  
（公社）アムネスティ・インターナショナル日本  
（公財）大阪社会運動協会大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）  
協力：（社）アムネスティ・インターナショナル韓国

※裏面もご覧ください

問合せ・連絡先：ヒューライツ大阪 TEL：06-6543-7003 Eメール：webmail@hurights.or.jp



それは、ある朝、突然起こった。日本生まれで、韓国に留学中の韓国人学生の部屋に屈強な男たちが押しかけ、有無を言わせず、学生を車に乗せた。

中央情報部（KCIA）などに連行された学生は、自白を迫られた。

「労働党に入ったのはいつだ？」  
「北（朝鮮）に行ったのはいつだ？」

否定すると、殴る蹴るの拷問が始まった。眠らせない尋問、水拷問、電気拷問。

熊本出身の李哲と、大阪出身の康宗憲のふたりの証言は、拷問の実情、24時間手錠をかけられた死刑囚の暮らしを明らかにする。

そして、獄中で自分を取り戻し、揺るぎないアイデンティティを獲得していく過程をつぶさに語る。

スパイ事件は過去のものとなったように見える。しかし、詩人の金時鐘が話すように、心の傷は消えない。

「スパイ」という言葉で、人々を脅し、若者の人生を弄ぶ「闇」は、私たちの社会の底流に今も潜んでいる。

取材・撮影・監督

## 小山 帥人（こやま おさひと）

1964年NHKに入局し、映像取材グループに所属。

主な取材作品に、現代の映像・『空からの衝撃』（'68）、NHKスペシャル・『コリアタウンの二世たち』（'90）など。退職後、映像作品として『もうひとつの世界は可能だ』（'04）を制作。映画『アイたちの学校』（'19）の撮影を担当。著書に『市民がメディアになるとき』（書肆クラレ'15）、『我が家に来た脱走兵』（東方出版'20）。

取材・撮影・監督

## 西村 秀樹（にしむら ひでき）

同志社大学ジャーナリズム・メディア・アーカイブズ研究センター研究員。

1975年、毎日放送に入社、主に報道局で放送記者。映像'90『軛（くびき）の女～朝鮮人従軍慰安婦』（'91）などを制作。北朝鮮6回を含め、ロシア国境から済州島まで取材した。主な著作に『北朝鮮抑留～第18富士山丸事件』（岩波現代文庫'04）、『絞首台からの生還～在日韓国人政治犯の半世紀』（三一書房'25）。

## 共催団体の紹介

### （一財）アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）



どこでも、誰にでも、いつでも同じように尊ばれるべき人権を伝えることを使命とし、国際人権情報のハブをめざして30年にわたり、さまざまな事業をおこなってきました。

- ▼国際人権に関する最新の情報を発信
  - ▼注目すべき人権課題でセミナー・講座を開催
  - ▼多様なテーマに対応する講師を派遣
  - ▼『国際人権ひろば』（ニュース冊子・隔月）を発行
- （会員には無料配布、過去の記事はウェブサイトに掲載）

★会員募集中⇒



### （公社）アムネスティ・インターナショナル日本



「世界人権宣言」や、国際人権法に定められた人権をすべての人が享受できる世界の実現を目指して活動している世界最大の人権NGOです。現在150カ国以上の国々で1000万人の支援者、会員、活動家によって支えられています。1977年にノーベル平和賞、1978年には国連人権賞を受賞しました。なお、再審制度に関して、真に被害者の救済に寄与するものとなるよう、「警察や検察庁といった捜査機関の手元にある証拠の全面開示を、国際人権法に則って法制化すること」「裁判所による再審開始決定に際した検察官の抗告を全面的に禁止すること」を私たちは求めています。

▼詳しくはホームページからどうぞ [www.amnesty.or.jp](http://www.amnesty.or.jp)

### （公財）大阪社会運動協会 大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）



大阪社会運動協会は1978年設立以来、100年以上におよぶ大阪の社会労働問題に関する資料を収集し、『大阪社会労働運動史』（全10巻）を発行しています。収集した8万点の図書、雑誌、記録文書、博物資料はエル・ライブラリーで公開しています。

- ▼平日の月～金曜、10時～17時開館
- ▼市民ボランティアと団体・個人の寄付で支えられている図書館です。
- ▼サポート会員募集中！詳しくはQRコードからどうぞ。

